

# 花たば通信

No.48 5周年特集

発行 NPO 法人 花たば  
〒657-0831 神戸市灘区水道筋 6-7-1  
電話 078-801-6632 fax078-801-678

いつでも一人になれる  
いつでも誰かに会える  
いつでも誰かにまかせられる

## コミュニティハウス花たば5周年記念祝賀会

＝開催のご案内＝

日時：2013年11月16日（土）12時～14時 受付11時30分から

場所：神仙閣（神戸市中央区）※最後頁地図参照

会費：5,000円

内容：挨拶

会食

映像で振り返る5年の歩み

音楽そしてみんなで歌いましょう

ゲーム（花たばクイズ）他



「心豊かに暮らせる住宅をつくりたい」

夢の実現に向けて歩き出して10年、コミュニティハウス建設から5年。何度か挫折しかけた夢をあきらめず、「かたち」に出来たのは、多くの皆さんの熱い思いと協力のおかげです。ここに、共に歩んできた会員、関係者、ご協力いただいた皆様とともにコミュニティハウス花たば5周年をお祝いしたくご案内いたします。

そして今、コミュニティハウスを拠点に地域の助け合いの輪を広げようと仲間が集まってきています。日本の高齢者福祉の現状を嘆いてばかりはいられません。ひとつでも「今出来ること」を「今出来る人」が、「今率先してする」花たばネットワークを育てようではありませんか。記念祝賀会は、そんな思いを共有する場です。どうか、お一人でも多くのご参加をお願いいたします。

# コミュニティハウス花たば



2004年 NPO 花たば設立、夢を実現させようと最初の一步を踏み出しました。どんな住宅にしたいのか、自分らしい人生を送るとは？どんなつながりを紡ぎだしたいか？集まるごとに話が弾みました。他所への見学も何度となく行いました。

やがて、コミュニティハウス花たばの骨格がみんなの中に出来上がり、具体的な建設へ向けて準備が始まりました。資金集め、設計事務所選び、設計案決定、建築へ…。



地鎮祭 2008年4月4日



工事風景



上棟式 2008年10月7日



コミュニティハウスを形成するのは人と人の繋がり。建設中も、入居を希望される方や関心を持っておられる方々に集まっていただき、お互いを知りあう機会を大切にしました。建設が進む現場を見るのも楽しみでした！



屋上からの景色は最高！見学のお客さんも「ホーッ！」と歓声です



音楽あり踊りあり、1周年記念は盛り上がりました。



# 5年間の歩み



←「とにかく花たばを知ってほしい！」人の集まる場所へ出かけていきました。民間主催の高齢者住宅説明会では大企業に交じってブースを設置、注目を集めました。



↑灘チャレンジのバザーは毎年参加、アピールの機会です。

医療生協の健康フェスタでも、花たばは入居者・会員の皆さんとバザーを出店。エレベーター前に陣取って、「買わないと通れません！」 →



フラワーアレンジ

第1回納涼会

夕食会の1コマ

成年後見人制度の勉強会



←201号室は、短期利用、体験宿泊、家族さんの宿泊など様々な活用されています。見学に見えた方々にも実際の部屋を見ていただけます。



日々の交流・食事の場としてお茶処花たばは定着しました。今年9月からは月曜から金曜まで毎日開店しています。多くの方々に有効に利用していただきたいと思います。

定食には屋上菜園で収穫した野菜も使われています！ →



初めてバス旅行！入居者・会員相互の親睦旅行となりました。

# 神仙閣

神戸店

〒650-0011 神戸市中央区下山手通2丁目13番1号  
TEL. (078) 331-1263 (代) FAX. (078) 391-1992

## 記念祝賀会参加は

10月16日までに  
お申し込みください。

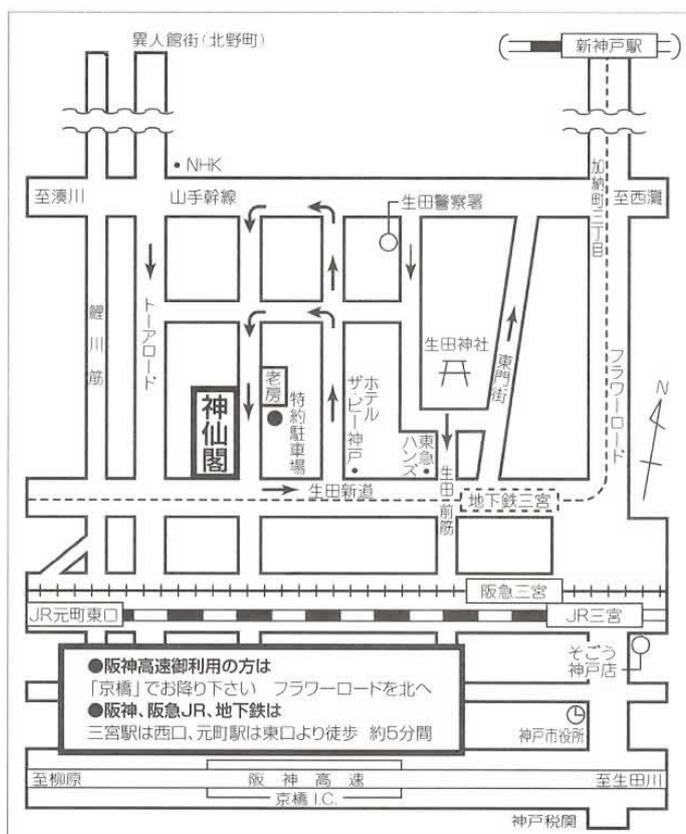
詳しいお問い合わせは

**花たば事務所**

**電話 078(801)6632**

をお願いします。

祝賀会実行委員会一同、楽しい会  
になるよう努めます。



## これからの予定

@日程等は未定もあります。  
@決まり次第お知らせします。

### ■11月9日(土)「つらい介護からやさしい介護へ」講演研修会

講師 **フンゴード孝子さん**

主催 **ろっこう医療生協・ひょうごん福祉ネット**

場所 **神戸市立こうべ市民福祉交流センター・介護実習室**

時間 **10:00~12:00 (講演と椅子介助実技)**

■クリスマス会

■海外旅行 (ハワイを予定)

今年の異常気象には本当に恐れを感じます。「たつまき」「かつて経験したことがないような集中豪雨」。被災された方々の生活の建て直しに苦闘する毎日を思うと言葉もありません。同時に互いに支え合う人の繋がりをしっかりと育てなければと思わされたことでした。